

## 第 5 回

# 山口市本庁舎の整備に関する検討委員会

平成 2 8 年 1 0 月 1 2 日（水）

山口市本庁舎の整備に関する検討委員会事務局

## 目 次

- 1 第4回山口市本庁舎の整備に関する検討委員会について・・・・・・・・・・ 1
- 2 第4回検討委員会後、事務局に提出された意見書について・・・・・・・・ 8
- 3 平成28年9月議会における答弁(要約)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4 新本庁舎の役割、機能、規模、候補地について・・・・・・・・・・・・ 14
- 5 第6回検討委員会日程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

# 1 第4回山口市本庁舎の整備に関する検討委員会について

## 1. 日時

平成28年8月2日（火）午後3時～午後5時 ホテルニュータナカ

## 2. 概要

### (1) 事務局からの説明事項

- ・新本庁舎の候補エリアについて

### (2) 委員からの意見等

意見、事務局の回答（要約）
<ul style="list-style-type: none"><li>・前回会議の後、地元の意見を伺ったところ、合併協定を見据えて運営されていない、附帯決議が無視されている、といった意見がでた。</li><li>・意見の統一意見をどういう形で集約をされるのか。</li><li>・合併当時の1市4町の首長に参考意見を聞く場を作ってほしい。</li></ul>
<p><b>【会長】</b></p> <p>附帯決議をどう考えるのかというのを、どういう経緯で、どういう形で、何のためにこれが作られたとかを、この場で議論することは多分無理だというのが考え方。</p> <p>我々が答申を出します。ここにお集まりの個人がベストと考える結論を出し、その答申を見られて、そのときの市長、議会の皆様が、それでいい、悪いという話は、その時に出てくるだろうと思っている。</p> <p>だから、ここにお集まりの皆さんのこれまでの考え方に基づいて、附帯決議がちゃんとあるということ踏まえ、どこにするかを考え、それを、周りの人に説明するのは、この答申の後、市長さんがどう考えられるか、議会でどういう答弁をされるか、そのようになると思っているので、そういう意味で、委員の皆さまの意見をまとめたいと考えている。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・我々はあくまでも諮問機関であるので、委員が常識を持って意見を出し、それを集約したものを市長に提出し、最終的には市長がお決めになる、議会も含めてということになると思う。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・私たちは各候補地につきまして、自分はどこの候補地がいいのかという意見を聞く、言う、そういった場をもって欲しいと思う。</li><li>・私は新山口駅周辺が良いと思っているが、そこにおいてもメリット、デメリットがある。</li><li>・他の候補地についても、どういう理由でいいんだというものを候補地ごとに出していけば、自然と集約も出てくるのではないかと思う。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・附帯決議を踏まえながら、議論するというのは全く意味がないのではと思っている。</li><li>・候補地について、まず安全でなくてはならない。市役所が倒壊したり、浸水によって職員が来れないという状況が発生するようであれば、それは適地でないと考えている。</li><li>・100年に1回の災害が起きた時でも、職員がきちんと集まれて、災害対策本部として機能が維持できる場所が求められるのではないかと思う。</li></ul>

- ・市役所は、市民の方が利用されるので、庁舎にアクセスしやすい場所が求められると思う。そうすると、10年前の合併の時と、現在とは状況が全く変わってきている。状況が変われば、その状況に応じた柔軟な考え方が必要ではないかと思う。
  - ・阿東と、阿知須から、それぞれの場所にアクセスする距離を見ると、小郡地区に建てると西側に寄っている。阿東の人は50キロくらい走らないと庁舎に着けない。逆に阿知須の方は10数キロくらいで着いてしまう。山口の都市核に設置すると、差が17キロくらいの差になるので、位置的には東側に寄った方がいいかなと思う。
  - ・人が来るということは、人口構成も頭に入れておかないといけない。人口構成（人口集中地区）は山口が38.7%、小郡は8.1%という構成になっている。この辺も考慮に入れる必要があるのではないかと思う。
  - ・今回新たに提案された候補エリアは、全て民有地である。民有地を取得し、整地をし、建てると、10年近い日時がかかるのではないかと思う。市の土地を使うのと、民有地を使うというのでは、かなり大きな差が出るのではないか。この辺も場所を設定する場合は考慮する必要があるのではないか。
- 
- ・附帯決議は、私の世代は社会人になってすぐくらいの頃で、合併したら小郡に市役所が来るのかなくらいしか知らなかった世代であり、あまり附帯決議のことは分からない。
  - ・今から先の20年後、30年後の山口市のビジョンというものが全くないままで位置の話が出ているのではないかと感じた。
  - ・市長が話されている中で広域経済交流圏の中心になりたいという山口県の中で、山口市を中心として、山陽側のそういう大きな広域経済圏に対抗しなければならない、その中の一番中心が山口市でありたい、というようなお話や、連携中枢都市構想を宇部と交通の要衝として行政間で連携をさせていることを伺った。もう1点、新国土形成計画を国土交通省が出され、これが将来の道州制に絡むような考えになると示されている。そうなった場合、仮に中国州となった場合、中心は山口県ではないと考えられる。廃藩置県になり、県庁をどこに作るかとなった時に、今の県庁の場所に萩から移転されたというのが、当時の交通の要衝であった山陽道、三田尻港が近かったとか、色んな考えの中から県庁を萩から山口に建てられた経緯があると思う。色んな観点から20年後、30年後に本当に活用するものに残す側として、考えていただきたい。その中で、交通の便というのはかなり大きなウェイトを占めていくと考えている。
  - ・安全な場所は候補地の中に1つも無い。現状の山口市も裏側が土砂災害の地域が一部かかっている。亀山公園も浸水地域になっている。小郡も浸水地域になっている。全てにおいて、ハザードマップで安全な場所は今のところ示されていないので、何らかの対策をしなければ防災の観点はクリアできないと思う。
  - ・将来性を考え、個人的に新山口駅周辺の方が発展もして、経済的にも長い将来の街づくりにかかる大きな経済効果が生まれるのではないかという観点から、新山口駅周辺の方がふさわしいと思う。

- ・各地域の特性も考える必要があると思う。それが将来にわたる山口市の発展につながると思う。
  - ・小郡地区は、産業交流拠点として促進する計画もある。もちろん交通の拠点でもある。そういう利点を生かした小郡地区は発展をしていく。
  - ・山口地区は行政機能が集積している。市役所の場所としては山口の方がふさわしいと思う。
  - ・小郡になると、阿東から 50 キロということで、過疎高齢化が進んでおり、市役所に出向くということは現在に比べても難しくなる。そういうことも考えると、市役所の位置は山口都市核に置いた方がふさわしい、それが山口の将来の発展につながると思っている。
- 
- ・我々が育った山口市という観点に立ってみると、県庁が萩から山口に移ったということがあるが、その前に、大内文化が栄えた文化の里であるということをしかりと山口の中央に植えつけていきたい。
  - ・県都山口市である。県庁があり、国の出先もあり、そういう所に行政として集約をする方がよいと思う。
  - ・教育、文化、それから歴史ということについては、旧山口が最適ではなかろうかと考えると、平地になっている亀山公園ふれあい広場が適地ではないかと思う。
  - ・人口があちらこちらに流れていくかと思うが、こういうきちんとした行政地域を作ると、そう人口は大幅には移動しないのではないかと思う。マンションもずいぶん建てており、人口も確保しているということで、集中的に人口が出されている。それは小郡も色々な施設が建つと、人口が増えると思うが、そういう観点から、亀山公園ふれあい広場がいいのではないか。
  - ・例えば福島のような津波が来たときに、どこの辺りまでどういう影響が出るか。山崩れだけではなく、津波も海拔高低差でそういう被害もあるだろう、そういうものを含め、私は亀山ふれあい広場がいいのではないかと思う。
- 
- ・南海トラフの巨大地震が、30 年以内の確率が 70%であり、市役所が建てば必ず影響を受ける。県が想定した津波浸水の想定区域図によれば、候補エリア 6 番は津波の影響を受ける。榎野川の近くは若干浸水していく。亀山公園まで行くことは考えられない。県の想定では、今の旧市街地まで大津波が流れ込むというのは考えられない。津波の点で言えば、候補エリア 6 は、建てれば必ず津波の影響を受ける。よって、津波が来ている間は市役所の職員は籠城し、災害対応はできないという、その覚悟をもって選ぶ必要があると思う。
- 
- ・数年前に榎野川の浄水場が浸かったことがあり、ポンプが駄目になって、山口市全域の水道が使えなくなったが、小郡は、旧小郡町の水源地が違うために一切断水がなかった。
  - ・津波の影響で、例えば朝田の浄水場が同じように浸かった場合、あれだけ広域の断水が続いたのは、我々の生活に非常に影響が大きかったが、現状で言うと、旧山口市の嘉川は断水だった。小郡は一切断水地域がなかったという、旧小郡町という特性があった。そういうインフラの観点からも今の現状でも本当の浸水以外は強いというのがあったので、旧山口市の川が氾濫した場合に、そのインフラがやられる可能性をまだ対策とられてないのではないかと思う。

- ・防災マップを見れば分かるが、亀山公園の下のところが黄緑で浸水予測が0.5メートル、ただし国道9号線とパークロードについては浸水の危険がないという形になっている。恐らく50センチくらいなら、地上げをすれば、浸水によるトラブルというのは回避できると思う。
- ・朝田の浄水場について、西部の方は断水したが、中心部・東部の方は影響がなかった。これは、朝田と東部の方は水源が全然違うということで、南部の方は断水をされたが、白石地区は断水の影響を全然受けなかった。あたかも山口市全体が断水したという印象を持ったので、実態を理解していただきたいということで発言をした。

- ・新山口駅周辺の提案の候補エリア4、5、6と、新山口駅周辺の再開発プロジェクトとの関連はどういうふうになるのだろうか。言い方を換えれば、新庁舎を新山口駅周辺にという構想が、現在のプロジェクトとの整合性はどう理解したらよいのだろうか？

#### 【事務局】

この度、候補地エリアとしてCの部分4番をお出ししていると思いますが、ここについて一方では、ターミナルパーク整備に関する市の計画があって、事業が進んでいます。

Aゾーンには10ページに書いてあるようなコンセプトの中で市が公共的なものを整備していく。C1、C2ゾーンについては、民間の力で商業、業務機能の集積、あるいは街中居住の推進を図るというエリアだと設定がしていることでございます。

ですから、Cをお示ししましたが、片方では現地の計画が進んでいます。Cそのものではないのですが、Aに公共の事業が進んでおりますので、そういったことを知っていただきたいということで、資料をお付けしています。

候補エリア5、6については、山口・小郡都市核マスタープランというのを作った中で、いま駅南のピンクの部分埋まっておりますので、次にこの街の広がりを作るというのは、5番あるいは6番のところ、そこに街が広がっていく可能性があるということで、マスタープランができていくという流れでございます。

#### 【会長】

新山口駅周辺の再開発というのは、そういう形で別の形で進んでいくということは、是非ご承知いただいて、検討していただければと思う。

- ・1市4町合併協定書における新市の事務所に関する項目、附帯決議をないがしろにはいけないと思う。この言葉があったからこそ、合併がスムーズに進んで、現在ここに山口市があると思っている。この言葉をまず前提に置いて議論をされるべきだと思う。
- ・亀山公園周辺エリアは、以前景観を壊すという意見があった。6階建てという案も出ている。高層になってくると亀山公園全体の景観を壊す恐れがある。従い、附帯決議どおり、小郡駅周辺の案を集約された方がいいと思う。
- ・一つの案であるが、本庁方式で議論されているが、分庁方式でもいいのではと思う。議会等を今の亀山公園周辺に持っていき、本庁機能を新山口駅周辺に持っていか、そうい

った色々な意見を集約するための設置案も一つの案ではなかろうかと思う。

・将来的を見据えて、20年、30年先を考えて、考えるべきだと思う。連携中枢都市という構想もあり、そういった中で人口の話をする、やはり軸足が上とか下とか決められないと思う。従って本庁は分庁方式にしてもいいから、新山口駅周辺が妥当ではないかと思う。

・山口市の心意気、今から30年を見据えた気持ちを具体化するのが山口市役所、そういう意味では今から市と連携、色々な国の施策に従った中で、ぜひ山口市の南部にお考えいただくのが一番いいのかなと思う。

・山口県、内海に下関から岩国までだいたい9市ある。その中で一番海岸沿いに人口が多いのが山口市。個人的には、外に向かってはアピールするものがひとつあれば素晴らしいものになると思う。そういう意味で、外に向かったシンボルとして市役所を南部の方にぜひお考えいただきたい。

・次の総合計画がある。市の機能の話も出ている。これだけ総合支所、地域づくり、協働のまちづくりと言われている。ぜひその辺の総合支所の機能、権限の強化、あるいは、それに伴う交流センターの機能強化、権限の強化が具体的にあって、新庁舎の機能とかを考えないと、ちょっとイメージとして出てこないかと思う。

・本庁舎の機能と、総合支所、あるいは交流センターの機能、この辺の住み分けをどう考えているのか。

・住民サービスに関しては、この総合支所を強化し、財源も機能も権限も機能ができる体制を作っていくということが重要だと思う。

・本庁舎の機能について、もっとコンパクトで重要な関連だけを取り扱うような本庁舎機能にしたなら、大きな施設は要らないのかなと思う。

・市役所の窓口業務を民間の企業に委託をして、6割の政令市が実施ということがある。総合支所の機能を強化すると、財政的にも非常に軽くなると思う。・そういった意味で、コンパクトな本庁舎にするため、新山口駅周辺に新設をされて、残された総合支所の強化によって、特に山口市の総合支所はもっと強力で推し進めていく体制を作ればいいのでは。宇部市との連携中枢都市構想というのが決定していると思うので、何年先になるのか分からないが、都市連携をすすめていくとどこが中心になるのかということを考えれば、おのずと結論が出ると思う。

#### 【会長】

規模、機能、位置の3つを一緒に議論をしている。大まかな考え方は山口市のどこに建てるかに対して、小郡に移すのだったらどこにするかっていう議論になってないなど。

だいたい小郡にするか、山口にするか、その時に附帯決議どう考えるか、そういう感じだとなっている。色々なメリット、デメリットも色々主張されましたので、事務局において、これまで出た意見を（体系的に）整理していただきたい。

庁舎を建て替える、その意見は一致している。そうすると、教育委員会とかはどうするの？という話があって、その時に、集約すると節約できるのかという話が本来ならなければならないが、なかなか難しい。

建て替えとなると、分散している教育委員会等、色んな機能を一緒に建てることにするのかどうかということも、考え方を少しまとめないといけないので、集約した方がいいのか、今までどおり機能を集約しないのか。しかも住民サービスは総合支所の範囲があるので、それは当然崩さない前提で議論をしていかないといけない。

組織を集約した方がいいのか、悪いのか、恐らく集約した方が、全体ではコストが安くなる気がするが、はっきり分らない。ただ集約すると、負担額は増える。ただしその集約された場所を変えてくるかもしれない。そこまでは検討してない。

建て替えるということは、決まっているので、どこに建てるかというのは、理由付けというのは、特に小郡に移すときにはかなり、例えば将来計画はどうなっているのか、そういうことも私自身は、要るのではないかなと考えていた。今の位置にするのであれば、他の計画はそのまま進めていけばいいが、小郡に移したときに、じゃあ今並列して走っている計画はどうなるのかなというのは変わってくるのかなという気もしているので、そこも含めてもう少し議論をしないといけないと思う。

- ・集約の件に関して、建物の規模によって一緒にすると値段が上がる。本庁舎を分庁舎化すると若干下がる、しかないが、前回の時に消防本部や教育委員会、水産港湾課とかを入れるという話があったと思うが、逆に集約したときのランニングコストはどれくらい下がるのかとかいうコストバランスが分かれば集約するのがいいのかなとかいう話分かるが、仮に可能であるなら、機能を集約した場合に年間の予算とかランニングコストがどれくらい費用対効果がでるのか出ないのか、その辺があれば、より多くの意見がでるのではないかなと思う。

#### 【事務局】

ランニングコストの件ですが、外に出ている機能を集めた場合のランニングコストと比較はできないかということでしたが、現在の古い庁舎で入りきらなくて外に出ているので、今の費用のシステムで比較するのは困難な訳です。新しく全部入った場合と、入っていない場合で比べるときに、そういった低コストでランニングコストが低くなるような設計とか、建物になると思うので、今のランニングコストと比べることも不可能なんですな。

そういった中で言えることは、持ってこなかった場合の面積だったらどのくらいになるのかとか、そういった話なら比較は可能ですが、今の教育委員会を除いたときのランニングコストの比較というのは非常に難しいという考えです。

- ・計画が出されている用地が、広い所で2万平方メートル。本庁舎を建てて、駐車場をとって、あと残りの土地がどれくらい出てくるのが心配。市役所は市の顔だが、その市の顔とセットであんな公園までもできるような、そういう用地が2万平方メートルで確保できるだろうか。建物を作って、駐車場を設けて、それで市の顔の市庁舎というのは何となくもったいないような気がする。そういうことで、前回の資料等も見たときに、用地の中にも建物が入れてあって、駐車場までとったらどれくらい残るだろうか、公園用地まで近くに確保できる場所が、どこならそれができるか、それを判断の基準にしたい。

- ・ 3回目の会議のときに出た資料では、新しく建てられる本庁舎については、現在市庁舎の外に出ている本来なら本庁舎の中にあるべき部や課は、一応全部中に取り込むという前提で資料の中に記載されている。ですから、議会棟だけ別のところに作るというような話ではなくて、全部この中にあるという話で、今の本庁舎、総合支所、各交流センターという3階層の構造は基本的には変わらない。
- ・ 名田島という自治会で、全て市に頼まないといけない立場。そうすると、まず交流センターに行き、小郡に行くと、南部土木行ってくださいと言われ、南部土木に行くと本庁に行ってくださいと言われ、本庁に行くと、うちの課と、あそこと、あの課にも行ってください。だから農林にも行ってくださいという話になる。そうすると、総合支所というのが、果たして名田島にとってどれだけの魅力があるかという話。それならいっそ、本庁に全て丸抱えして、本庁がワンストップしてくれたらいい。今、本庁にバスで行く、歩いて行くという人はそれなりに限られる。今の議論はどこにするかという議論がすすんでいるが、それはワンセット全ての機能を本庁舎に抱えこんだものを建てかえらしたらということと話を進めていただき、総合支所にどういう権限をどれだけ持たせるかっていうのは、本庁のワンストップ機能を弱くしそうなものなら、私は極論すれば、なくてもいいと思う。

#### 【会長】

色んなご意見が出された。現在地にするか、新山口駅周辺にするのか、メリット、デメリットの検討や、位置を移す場合は相当理由をしっかりとしないといけないと思っている。なぜそこにするという意見をもう少し、皆さんと意見を交わして、候補地をどうするかを決めていきたいと思う。

できれば次回にはまとめたと思っているが、無理して次回必ずということはやりたくないと思っている。

理由付けは大切だと思うので、そこを是非検討され、次回に臨んでいただきたい。

- ※・ 附帯決議については、その内容を考慮しつつ、委員一人ひとりの考えで検討していくということで意思統一が図られた。
- ・ 第5回検討委員会で引き続き、新本庁舎の役割、機能、規模、候補地について検討することになった。

## 2 第4回検討委員会後、事務局に提出された意見書について

### 意見（要約）

#### 【協議の進め方について】

私は、今までの委員会にはすべて出席しているが、委員の中には、委員会の役割について理解されていない方がいらっしゃるのではと感じる。

第1回の会議資料27ページに「山口市本庁舎の整備に関する検討委員会設置要綱」が記載してあるが、この要綱第2条に《委員会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について検討し、市長に答申する》とある。

- (1) 本庁舎の整備の方向性に関すること。
- (2) その他本庁舎に必要な事項に関すること。

とあり、この要綱の中で求められているのは、市庁舎の設置場所を議論するのではなく、市庁舎を設置するにはどのような条件を満たさないといけないのかを調査、検討し、住民の意見を反映させることが目的であり、提示された設置場所について、その場所がなぜ適地であるか要件を議論し、答申案として取りまとめ、市議会で、市庁舎の機能や設置場所の協議に、住民の意見を反映させることが求められていると理解している。

今、10年前の附帯決議を理由に設置場所を答申するのであれば、このような検討委員会の設置は必要がなく、まったく無駄な時間と費用の浪費と考える。

第3回の委員会で、附帯決議にある、新山口駅付近が適地であるとの意見を踏まえて候補地を3地点追加したが、この候補地がなぜ適地なのか候補理由が全く提示されていない、しかもここは民有地であり、ここに設置するとすれば関係地主の同意と、取得費用も増加する。

10年前の1次合併時の附帯決議を決定した時の山口市の情勢と、5年前の第2次合併（阿東町）により、山口市の規模も、社会情勢も大きく変化してきており、10年前の附帯決議時の候補理由は不明だが、本庁舎の設置に基づき、現在の山口市の規模、社会情勢、自然災害、等の実態に基づき本庁舎設置にかかわる諸条件を（何が必要で、何が必要でないか）改めて検討することが必要と考える。

#### 【会議の運営について】

各委員には、事前に各委員が文書で提出した案件が、会議議事録とともに資料として配布されており、各委員はこの内容を検討して出席されていると理解しているが、事前に文書で提示された案件について検討はなく、当日会場で発言のあった問題のみ議論の対象になっているが、文書での意見提出については、もっと真摯な対応が必要と考える。

意見（要約）

2	<p>【今後の進め方について】</p> <p>①庁舎の場所選定について、議論の進め方          (イ) 異なる意見があるので、場所をどこにするか、委員全員の無記名による投票を行う。          (ロ) 異なる意見を併記し、答申する。→声の大きい意見だけ尊重しない。</p> <p>②場所の選定のほか、かねて申し上げているとおり、          (イ) 総床面積削減→市職員の削減を答申に盛り込むべきである。</p>
3	<p>【今後の検討委員会の進め方について】</p> <p>今後の予定では第5回、第6回の審議終了後、1月には答申が出されることとなっているが、これまでの審議状況を見て、不安であり、これで答申がなされてよいものかと疑問がわいてきた。</p> <p>その第1は、44人の委員一人ひとりが自分の本音を言える時間が与えられていないし、その第2は、発言しやすい雰囲気ではない。言いたいことの1割にもならず、消化不良をおこしている。私と同じ心境の方がおられるのではないか。委員が自分の意見を発言した上で答申を出していただければ私も納得するし、委員さんも納得されるはず。</p> <p>そこで、解決する方法として、会長、副会長を除く委員を5～6グループに分け、2～4時間（2回）の時間を取って意見を出し合う方法を提案する。</p> <p>候補地はあがっているし、予算等も分かっているので、自分はこの候補地がいいと思う、理由はこうです、ということを発言し、意見交換すれば委員も周囲を気にせず発言できるのではないかと思います。</p> <p>たとえ同じ候補地でその理由が同じでも全ての委員さんに発言を求めることが大切だと思うし、委員の発言は全て記録し、公開すればいいのでは。</p>

### 3 平成28年9月議会における答弁(要約)

#### ①新本庁舎の役割や規模(総合支所等の役割や権限の強化に関すること)

##### 【市長答弁(要約)】

現在、山口市本庁舎の整備に関する検討委員会におきまして、新本庁舎の役割や機能、規模、候補地について、御検討いただいているところでございます。

その内、規模の検討に当たりましては、総合支所や地域交流センターの機能や規模は、現状のとおりとし、現本庁舎に配置している組織に加え、行政サービスや行政効率の向上の観点から、狭あい化により分庁化した組織の集約や、防災拠点の機能強化の観点から消防本部機能を集約した組織案をもとに、適正な規模について御検討いただいているところでございます。

今後の総合支所及び地域交流センターの役割や権限の強化につきましては、既に検討委員会においても御意見をいただいておりますので、昨年度実施いたしました行政診断の結果を踏まえますとともに、検討委員会での御議論も尊重する形で、現在の総合支所方式の機能向上に向け、本年度から平成29年度にかけて、第二次総合計画や次期行政改革大綱の策定を進める中でしっかりと検討してまいりまして、各地域における行政サービスの充実を図ってまいりたいと考えております。

そして、その検討内容につきましては、本庁舎の整備に関する基本方針の決定や本庁舎の整備を進める際に反映してまいることとしております。

#### ②新本庁舎の位置(候補地の評価)に関すること

##### 【市長答弁(要約)】

検討委員会において、新本庁舎の候補地を客観的に検討していただくため、候補地案及び候補エリアごとに様々な項目をお示しいたしております。

具体的には、土地概要や新本庁舎の想定延床面積、事業費試算などの基本的な内容はもとより、整備工程や事業期間、事業費の将来負担見通し、用途地域の変更などの懸案事項、公共交通や道路配置などの交通状況、各総合支所からの距離などの地理的状況、官公署など周辺施設の配置状況などでございますが、この他にも、市内地域別の人口分布、ハザードマップによる防災情報なども資料としてお示しいたしております。

こうした内容も踏まえ、本庁舎にふさわしい位置について、御検討をいただいているところでございます。

委員からは、候補地を検討する上で、評価項目を設定し、個別に評価する必要があるのではという意見もございましたし、会長からも、本庁舎の位置を変更する場合には、しっかりと理由付けが必要であるとの認識や、これまで出された意見を体系的に整理する必要性を示されておられます。

こうしたことから、第5回検討委員会では、候補地案及び候補エリアに関しまして、最終的な意見集約に向けて、議員御案内の佐野市のような例も参考にされ、評価方法の導入につきましても、検討がなされるものと考えているところでございます。

### ③新本庁舎の位置（新山口駅北地区重点エリアの整備計画）に関すること

#### 【総合政策部長答弁（要約）】

新山口駅北地区重点エリアにおける整備につきましては、1市4町の合併時に策定した「新県都のまちづくり計画」において、交通交流拠点づくりプロジェクトに掲げた小郡都市核整備の重要施策として位置づけられております。

また、同計画を踏まえ、新山口駅北地区まちづくりデザイン会議の「新山口駅北地区開発ビジョン検討協議報告書」も参考にいたしながら、平成20年8月には、「山口・小郡都市核づくりマスタープラン」を、平成22年3月には「新山口駅北地区重点エリア整備方針」を、平成25年3月には「小郡都市拠点の機能強化に向けた整備基本計画」を、平成27年7月には「新山口駅北地区重点エリア拠点施設整備実施計画」を策定し、産業振興や民間主導による市街地整備の促進に取り組んでまわったところでございます。

また、計画の立案過程におきましては、パブリックコメントの実施等により、市民の皆様に御意見を広く伺うとともに、市議会にも適宜御報告を申し上げてきたところでございます。

こうした取組みの結果、現在、Aゾーン及び周辺市有地につきましては、産業や交流を促進する複合的な産業振興の拠点施設の整備に向け、民間事業者から具体的な整備内容の提案を募集するための準備を進めるなど、産業振興による新たなビジネス街としての空間形成を進めているところでございますことから、新本庁舎の候補地案とはしていないところでございます。

### ④新本庁舎の位置（都市核づくりの方向性）に関すること

#### 【市長答弁（要約）】

現在、山口都市核づくりにつきましては、中心市街地、大内文化ゾーン、湯田温泉エリアにおける都市基盤整備を進め、行政、文化、教育、商業、観光などの都市の既存ストックをより高め、商業や観光の個人消費の場として、あるいは人口を増加させていくエリアとしての都市空間形成を進めているところでございます。

また、小郡都市核づくりにつきましては、新山口駅周辺市街地を中心に、新山口駅ターミナルパーク整備事業や新山口駅北地区重点エリア整備事業など、県の玄関にふさわしい新たな交流やビジネスの拠点としての魅力を高める市街地形成を進めているところでございます。

こうした取組の積み重ねの結果として、両都市核の人口が増加し、事業所数や従業者数も良好な状況でございます。また、大手コーヒーチェーン「スターバックス・コーヒー・ジャパン株式会社」が山口都市核への進出を決定されますとともに、インターネットリサーチの分野を中心に顧客企業から受託業務にかかる事業を展開する「トゥルージュオ株式会社」が、小郡都市核に事業所を開設されるなど、目に見えるかたちで都市型産業が進出したし、まちの姿が変化しております。

山口都市核に個人顧客を対象とした企業が、また、小郡都市核に企業間のビジネスを中心とした企業が進出したしたことは、両都市核づくりの取組を通じて、それぞれの都市核の特長や役割が、明確になってきているのではないかと認識をいたしているところでございます。

こうした中で、昨年8月に策定された国土形成計画における国土の基本構想では、それぞれの地域が個性を磨き、異なる個性を持つ各地域の間で対流が発生することでイノベーションや地域が活性化する「対流促進型国土」の形成を図ることとされておりますので、本市におきましても、山口・小郡の両都市核を含めた市内の各地域がそれぞれの個性や特長を高め、異なる個性が対流し、繋がりあい、本市全体として魅力を向上していくことができると考えております。

したがって、山口、小郡の両都市核づくりの方向性といたしまして、互いの都市核の個性を際立たせ、両都市核の間で、あるいは周辺地域との間で、対流を生み出せるような都市基盤整備や都市機能の集積を進めていく必要があると考えているところでございます。

こうしたことから、第二次総合計画における山口都市核づくりにつきましても、行政、文化、教育、商業、観光など、都市の既存ストックをより高め、商業や観光の個人消費の場として、あるいは、人口を増加させていくエリアとしての空間形成を進めていく方向性での検討を進めております。

また、小郡都市核づくりにつきましても、新山口駅や周辺市街地を中心に、県の玄関にふさわしい、新たな交流やビジネスの拠点としての魅力を高める市街地形成を進めるという方向性で検討を進めておりますなど、両都市核の個性や特長をさらに際立たせていくことで、本市全体、さらには、県中部エリア全体での対流を生み出し、経済活動等のさらなる活性化を図ってまいりたいと考えているところでございます。

さらに、現在、策定を進めております立地適正化計画につきましては、平成28年度に、都市機能誘導区域を定め、その後、平成30年度に、居住誘導区域を定めていくこととしております中で、現在の「山口・小郡都市核づくりマスタープラン」における各ゾーンのまちづくりの方向性と整合性を図っていく必要もございます。

## **⑤新本庁舎の位置（広域経済・交流圏、連携中枢都市圏）に関すること**

### **【市長答弁（要約）】**

本市におきましては、分散型都市構造にある県中部エリアにおいて、高次な都市機能を将来にわたって維持・集積させ、地方における雇用の大半を占めるサービス業を創出し、若者の流出を防いでいくために、拠点都市を形成し、一定規模の人口にある都市が連携することで都市圏を形成していくことが重要であるとの認識のもと、「広域県央中核都市づくり」の取組を進め、県中部エリアにおける広域経済・交流圏の形成を図っているところでございます。

県中部エリアにおけるそれぞれの都市が、都市の特長を生かして、交通インフラ、産業といった都市機能を集積、分担、連携しながら、産業力の強化や高次な都市機能の維持集積を図り、圏域全体の発展につなげていくという本市の都市圏形成の考え方、この考え方と方向性を同じくするかたちで、国におきましては、平成26年度以降、「国土のグランドデザイン2050」や、「連携中枢都市圏構想」をはじめとした、地方における都市圏形成の考え方を相次いで打ち出されているところでもございます。

広域経済・交流圏の形成に向けた進捗状況につきまして、連携中枢都市圏構想の関連で申し上げますと、本年4月には、県中部エリアが該当するかたちでの要件緩和がなされ、現在、

本市をはじめ、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町の7市町で、協議を重ねているところでございます。

この連携中枢都市圏構想は、道州制や新たな市町村合併を推進することを目的とした取組ではなく、また圏域内における行政機能や都市機能の再構築や、行政サービスの統一を義務づけるものでもございません。現在の県中部エリアにおける、各市町のまちづくりの方向性、各市町が持つ行政機能や高次都市機能の配置や枠組のもとで、互いの個性や特長を生かし、連携することで、県中部エリアの圏域全体の将来にわたる経済成長のけん引、高次都市機能の集積強化などを図っていくものであり、まさに本市が掲げる広域経済・交流圏の形成と方向性を同じくするものでございます。

したがって、本市といたしましては、こうした方向性で、連携中枢都市の、いわゆる中心市としての役割を圏域内で果たしてまいりたいと考えております。

あわせて、各市町のトップや関係者の皆様方の御意向、御意見を伺い、意見交換の場や検討期間をしっかりと確保いたしながら協議を進めてまいり、十分な調整を経た後に、本市と宇部市による連携中枢都市宣言を実施してまいりたいと考えているところでございます。

同時に、第二次総合計画における広域的な都市連携、連携中枢都市圏の形成などの位置づけにつきましても、検討してまいりたいと考えております。

## **⑥新本庁舎の整備に関する基本方針（答申の反映）に関すること**

### **【市長答弁（要約）】**

検討委員会の答申書には、諮問いたしました本庁舎整備の必要性や役割、機能、規模、候補地など本庁舎の整備の方向性に関して、検討委員会の44人の委員の皆様が会長を中心に、市民の皆様が将来にわたって利用される本庁舎がどうあるべきか、真剣に御議論をいただいた結果が反映されるものと考えております。

こうしたことから、本市が本庁舎の整備に関する基本方針を決定する際には、答申書の内容を尊重してまいりたいと考えておりますし、検討委員会で協議し、とりまとめをいただきました各項目の経緯なども総合的に検討してまいりたいと考えております。

## **⑦新本庁舎の整備に関する基本方針（市民の意見集約）に関すること**

### **【総合政策部長答弁（要約）】**

本庁舎の整備に関する市民意見の集約につきましては、まずは、検討委員会におきまして、様々な視点から御検討をいただいているところでございますので、その状況を尊重してまいりたいと考えているところでございます。

本市といたしましては、平成28年度中に検討委員会から本庁舎の整備の方向性についての答申をいただき、平成29年度中に本庁舎の整備に関する基本方針を決定してまいりたいと考えております。

基本方針を決定する際には、その内容に関しましてパブリックコメントを通じて、市民の皆様幅広く御意見を伺うことといたしておりますが、アンケート調査による意見集約などにつきましても、今後、必要に応じて、検討してまいりたいと考えております。

## 4 新本庁舎の役割、機能、規模、候補地について

### 1. 行政組織を集約する場合のメリットや課題について

#### (1) メリット

##### ① 市民サービス提供上のメリット

窓口や手続のワンストップ化による行政サービスの向上や利便性の向上（複数の課に用事がある場合、1度に用事を済ませることができ、庁舎を移動する必要がなくなる）

※集約を想定している組織（一部）の年間受付件数（平成 27 年度）

部局	年間受付件数	主な内容
健康増進課	約 4,500 件	検診申請、個別相談、母子手帳交付、乳幼児転入手続きなど
教育委員会事務局	約 4,000 件	共催・後援申請手続き、奨学金手続き、学籍関連、教育相談、就学援助関連、スポ少関連、子ども会関連、やまぐち路傍塾など
環境部	約 2,000 件	生ごみ処理機等補助金、つくし推進事業、廃棄物運搬業者許可更新申請、犬の登録、溝蓋開け機、蜂防護服貸出、死亡ペットの受入など

##### ② 行政運営上のメリット

###### ■再集約する組織（健康増進課、教育委員会事務局、環境部等）

- ・組織間の連絡・調整・協議によるさらなる連携強化が図られ、行政効率が向上する。
- ・勤務場所と本庁間の移動にかかる経費の節減（試算で年間約 1000 万円削減）や移動時間がなくなることによる行政効率の向上が見込まれる。
- ・集約を想定している組織の建物分のランニングコストが軽減される。

特に山口市別館（教育委員会、選挙管理委員会）は、建築後 55 年経過し、老朽化が進むなど現本庁舎と同様の課題を抱えており、いずれは建替えの必要があるため、個別に建築した場合と比較し、コストダウンのほか、敷地の有効活用等も見込まれる。

###### ■新たに集約する組織（消防本部）

- ・危機管理機能の集約によるスピード化  
119 番を受報する消防通信指令機能（通信指令課）と災害対策本部の集約化により、被害状況等の速やかな共有と対応が可能となる。
- ・同系列業務（機能）の集約によるワンストップ化  
予防行政機能（消防設備に関する規制など）と建築行政機能の集約化により、市民や事業者等に対するワンストップサービスが可能となる。

### ③ まとめ

本庁舎の狭あい化等による組織の分庁化（教育委員会等）の実施にあたっては、分庁化した組織における申請や手続等については、分庁化が市民サービスの低下につながるよう、可能な限り各総合支所や地域交流センターでも対応させるなどの取組とあわせて実施をしている。

こうしたことから、組織を集約するメリットとしては、来庁者のワンストップ化など市民サービス提供上のメリットよりも、主には、組織の連携強化による行政効率の向上効果など行政運営上のメリットの方が大きいものと思われる。

## （２）課題

- ・組織の集約により未利用となった土地・建物の維持管理や有効活用についての検討

※なお、組織の集約化により、増加する来庁者に対応するための駐車場については 200 台の確保を想定しており、いずれの候補地、候補エリアにおいても駐車台数は対応可能な状況である。

2. これまでの意見(要約)を項目別に分類し、まとめたもの

項目			全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見	
1	利便性	市民	公共交通機関の利用によるアクセスが便利か(最寄駅、最寄バス停からの距離)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が使いやすいのが一番</li> <li>・市民の利便性を大切に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が利用するのでアクセスしやすい場所が求められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外から山口県庁や山口市役所に来る人は必ず新山口駅で乗降する</li> <li>・交通の便は大きなウェイトを占める</li> <li>・萩から山口に県庁が移転したのも交通の要衝であったから</li> </ul>
			自動車によるアクセスが便利か			
			来庁者駐車場が十分に確保されるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外に出ている組織を1か所に集める場合、必要な駐車場が本当に機能できるのか</li> </ul>		
			人口の重心から近いのか(将来含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民サービスの拠点とする考え方で、人口集積率も頭に入れながら検討していく必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口構成を考慮すべき</li> <li>・人口集中地区を考慮すべき(総人口は大幅に移動しないのでは)</li> </ul>	
			地理的な重心から近いのか		<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口市各地からの距離があまり偏らない、ほぼ中心地が望ましい</li> <li>・小郡～阿東間は50kmとなり、高齢化が進む中、行き来が難しくなる</li> </ul>	

項目				全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見
1	利便性	行政	他の官公署や関係機関との連携が容易か (災害時含む)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁の選定に当たっては、国や県の施設との関係も重要である</li> <li>・白石地域は公共機関や、司法、行政機関が集中しており、各行政機関の集中度が高い地域が望まれる</li> <li>・県都であり、国・県との連携がとりやすい位置</li> <li>・山口都市核は、行政関係のインフラが整備され、こうした地域特性の活用により、行政効率の向上を図ることが重要</li> </ul>	

項目		全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見
2	防災・安全性	<p>自然災害（地震、台風、豪雨等）に対する安全性が十分か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般論として、建ててほしくないところとして、地すべり地域と土石流地域がある。川の近辺でかなり浸水するところも避けなければいけない</li> <li>・市庁舎だけを丈夫にしても防災対策にならない。地盤が安定したところを探すのが良い</li> <li>・災害に強い庁舎の場所選定が大事</li> <li>・南海トラフの巨大地震が30年以内の確立が70%であり、県の想定でいくと、候補エリア⑥は津波の影響を受ける。亀山公園までの影響は考えられない。津波が来ている間は市役所の職員は籠城し、災害対応はできないという、覚悟をもって選ぶ必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所は安全でないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの候補地も安全ではなく、何らかの対策をしなければ防災の観点はクリアできないのかなと考えている</li> </ul>

項目		全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見
2	防災・安全性	<p>災害時に、避難所や防災拠点として機能できるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水は一旦浸水すると市役所が孤立するので職員を派遣することは当分できない。情報収集や情報発信のために職員が移動もしくは参集することすらできない。一方地震は、一旦揺れが収まれば、周囲の状況に注意しながら参集や職員を地域に派遣して動くことができる</li> <li>・物資や自衛隊拠点など災害時に多目的に使用可能な敷地が近くにあることが望ましい。</li> <li>・大規模災害対応をどこがとりやすいか。県庁との連携もあるし、県警との連携もある。自衛隊との連携も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策として機能することができる場所が求められる</li> </ul>	

項目		全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見	
3	まちづくり	まちづくり計画等と整合性が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在地にするか、新山口駅周辺にするのか、メリット、デメリットの検討や、位置を移す場合は相当理由をしっかりとしないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽化した市民会館を解体し、庁舎を建設し、小郡に文化会館的なものを建設し、小郡をにぎやかにする。</li> <li>・ 来庁者は、車、自転車、徒歩が殆どで、新幹線を利用する市民はいない。災害発生時に災害対策本部として機能することが必須であり、地滑りや浸水しても交通が遮断されない道路網が整備されていることが重要。以上のことから現市民会館と併合した複合ビルを提案する。</li> <li>・ 各地域の特性を考える必要がある</li> <li>・ 大内文化が栄えた文化の里であることを山口の中央に植えつきたい</li> <li>・ 教育・文化・歴史のまちづくりという点では旧山口が最適であり、平地になっている亀山公園が最適では</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇部市との連携中枢都市構想により県央部の魅力ある地域づくりが達成できると期待しており、建築場所は宇部市との距離も勘案し、新山口駅周辺がよいのでは</li> <li>・ 連携中枢都市を宇部市と交通の要衝として、進めている</li> <li>・ 将来の発展を考えた時、現在地よりも新山口周辺の方が期待が大きい</li> <li>・ 宇部市との都市連携も進めていくとき、どこが中心になるかを考えれば、自ずと結論がでるのでは</li> <li>・ 山口県、山口市の玄関口としての将来構想、宇部市、美祢市、防府市との玄関、こういったものを含めて、山口県をリードできるような山口市構想を考えていただきたい</li> </ul>

項目		全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見
3	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の位置にするのであれば、他の計画はそのまま進めていけばいいが、小郡に移したときに、並列して走っている計画はどうなるのかも含めて議論をしないとイケない</li> <li>・現在地にするか、新山口駅周辺にするのか、メリット、デメリットの検討や、位置を移す場合は相当理由をしっかりとしないとイケない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小郡都市核は、今ある交通インフラを活用した振興策を重点的に進める方が、今後の地域振興になるのではないだろうか</li> <li>・小郡は産業交流、交通をいかして発展すべき</li> <li>・10年前と今では状況が違っており、状況が変われば柔軟に考えるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域経済交流圏の中心として山陽の広域経済圏に対抗し、その中心が山口市でありたいときいている</li> <li>・山口市、山口県の玄関として整備すべきでないかと思ひ、位置は新山口駅周辺がいい</li> <li>・20年、30年先のビジョンを踏まえ検討すべき</li> <li>・30年後を見据え、山口市の心意気を示してもらいたい</li> <li>・山口のシンボルとして南部の方で考えてもらいたい</li> <li>・将来性を考え、将来の街づくりに大きな経済効果を生まれるのではないか</li> <li>・附帯決議を前提に考えるべき</li> </ul>
	周辺環境や景観に配慮されているか		<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所は山口が適当だと思うが、現地建替え(①-1)の場合、6階建てでは景観が損なわれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亀山で高層建物は景観をこわすのでは</li> </ul>

項目		全体意見	山口地域を適地とする意見	小郡地域を適地とする意見
4	実現性・経済性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費の問題については、将来的な負担額がかなり圧縮されているので、初期投資を少し増加させたとしても、費用対効果としては十分いけるのではないか</li> <li>・財政負担が大きく、将来の市財政を圧迫する</li> <li>・人口減少に伴って職員数、延床面積を減らすべき</li> <li>・今の市役所を解体し、仮庁舎を作ると、仮庁舎の無駄が出る</li> </ul>		
	法手続きや民有地取得等により時間や経費を要することがないか		・民有地はかなり日数がかかる	・用地（市庁舎、駐車場）が広く、安く確保しやすい

## ■機能等に関する意見

- 【行政機能】 県庁所在都市の本庁舎であることや市域が広くなり 1000km<sup>2</sup> を超える大きな自治体となった。そういう山口市の本庁舎と総合支所、地域交流センターをネットワーク化する中で、防災、情報といったところの本庁舎が、かなめになる。
- 【行政機能】 市役所本庁舎は都市機能の拠点となる。さらに市民活動の拠点になりうる。周辺市街地、非常にいい影響を与えるので、例えば市街地の再生を図っていこうとするケースであるのか、それとも衰退した地域を何と盛り上げようとするケースなのか、そういう諸問題があったとすれば、建替えによって大きく影響があるということで、良い方向に向かわせることができるのではないだろうか。
- 【行政機能】 従来の機能に加え市民の文化活動のために開放されたスペースと地域の文化や教育を発信する機能が必要
- 【行政機能】 本庁舎整備を機に本庁と総合支所の役割・分担を明確にし、住民自治の拠点となる総合支所の強化を検討すべき
- 【行政機能】 機能については、本庁舎の機能と、総合支所を完全に切り離すべき
- 【行政機能】 教育委員会など分散している組織について集約した方がいいのか、今までどおり集約しないのか、それについて総合支所機能は崩さない前提で議論しとりまとめないといけない
- 【行政機能】 多様化するライフスタイルに対応した環境づくりが必要
- 【行政機能】 市民サービスの電子化、オンライン化、総合支所とのネットワーク化など、新しい形のサービスが提供できる情報インフラ整備や機能化の視点が必要
- 【行政機能】 障がい者やお年寄りに対する配慮、特に災害時については支援機能が必要ではないだろうか
- 【防災・安全性】 地震に関しては、小郡も山口も断層帯であり、震度6強は免れないと思う。ただ免震を入れることで、かなり力を減制することができる
- 【防災・安全性】 市民の安心安全というのが大変重要視されており、防災拠点としての機能を備えた施設であるべき

### 3. 本庁舎候補地の検討の視点(案)

検討の視点			
1	利便性	市民	公共交通機関の利用によるアクセスが便利か（最寄駅、最寄バス停からの距離）
			自動車によるアクセスが便利か
			来庁者駐車場が十分に確保されるか
			人口の重心から近いか（将来含む）
			地理的な重心から近いか
		行政	他の官公署や関係機関との連携が容易か
			各総合支所との連携が容易か
			職員用駐車場が十分に確保されるか
2	防災・安全性	自然災害（地震、台風、豪雨等）に対する安全性が十分か	
		災害時に、避難所や防災拠点として機能できるか	
3	まちづくり	まちづくり計画等と整合性が図られているか	
		周辺環境や景観に配慮されているか	
4	経済性・実現性	事業費（財政負担）	
		法手続きや民有地取得等により時間や経費を要することがないか	

#### ■地方自治法 第4条第2項

2 前項の事務所の位置を定め又はこれを変更するに当つては、住民の利用に最も便利であるように、交通の事情、他の官公署との関係等について適当な考慮を払わなければならない。

## 5 第6回検討委員会日程について

日 時：平成28年11月25日（金）14時～16時（2時間程度）

場 所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2番7号）